

Ohmi Net

No. 42
7・8月号

おひみネット



BIWA CHAN



Q1.環境破壊を止めるために必要なことは?

県民175人巻頭アンケート結果

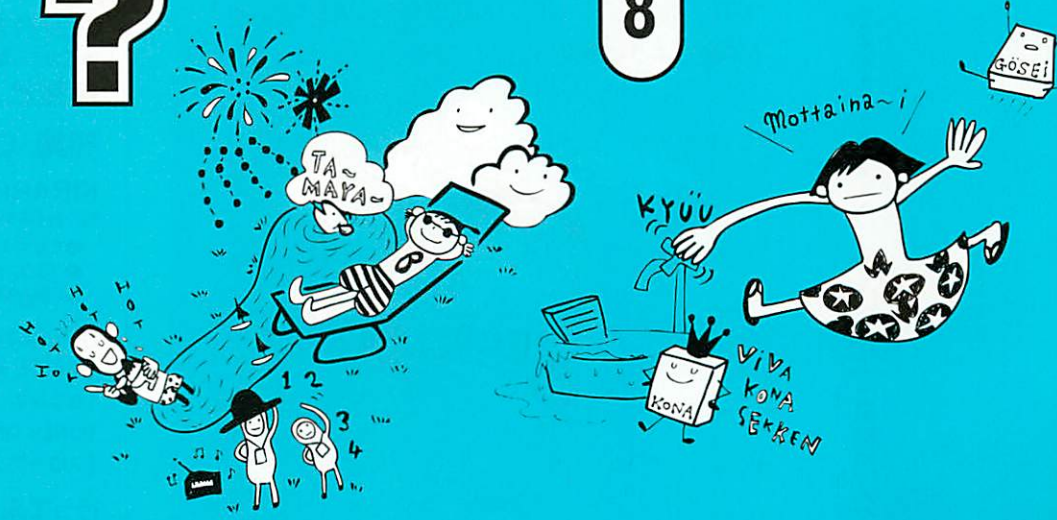
- まずどんな環境保全活動があるのかもっとアピールが必要。そして、それからだと思います。
- 消費を抑える。余分なものは買わないこと。日本は仕事中毒の人が多く、もっと家族の時間を楽しむゆとりをもち、小さなコミュニティで自給自足を模索しても楽しいと思う。あまり電気やガソリンに頼らない生活を模索すべきと思う。子どものときから「自然」や「農業」を身近に感じる教育に転換して欲しい。
- ひとり一人が環境に関心をもつことが必要。もたない限り、環境を守ることはできないと思う。
- 身近なことから。省エネ、排水時の心がけを行う。
- 町の中にも木・花を植え、緑化の促進を図る。庭木を植える等、個人ができること、ささいなことが大切な環境保全につながると思います。
- リサイクルをすすめること。でも一般家庭では分別方法がややこしすぎ、コンビニやお店・地域によっては、ごちゃまぜに捨てているのが現状です。全国で統一し、できる限り国民の負担にならない、わかりやすいリサイクル方法を早急にすすめるべきだと思います。
- 生ごみをリサイクルする。消費型から生産型へ移行する。
- 天然ガス自動車を増やす。
- リサイクルされる過程が、しっかりすること。回収したものが、保管期間が短く、再生される事が、回収率にも繋がると思う。
- ポイ捨てを減らすために、小学校以下で、ポイ捨てされたものがどう迷惑をかけ、動物等にどう影響するか学べばいいと思う。
- 弁当を買ったとき割り箸はもらわないようにする。買い物袋は持参する。
- 人口より多い居住空間があるのだからこれ以上、森林地帯などの新規開拓を止めるべき。
- 合成洗剤は一切使わず、粉石けんで洗濯をする。
- 米の研ぎ汁を植物にやるようにする。
- 個々がそれぞれ“次世代に良い環境の地球を渡す”と真剣に考え意識レベルの底上げをしていけばよいのではないだろうか?
- unnecessaryなものは買わない!
- 車を使う時、なるべくエアコンを使わず、使っても、こまめにオンオフする。また踏み切りや長い信号ではアイドルストップしている。
- 製品を作る側がもっとエコを打ち出したモノの割合を増やし、市場の全体的にエコのムードを高める。
- 自然と触れ合うことが大事だと思う。田植えの手伝いとか、たけのこ採りとか潮干狩りとか、身近な自然に触れ合うことから始めたら、自然の大切さがわかってくるんじゃないかと思えます。
- 暑いからといってすぐエアコンをつけない。
- 24時間営業など、遅くまで開いている店が増えていることが環境にわるい(電気が使いすぎになる等)
- 早く、ねむって朝、早く起きて仕事をすれば、無駄な電気も消費が減る。

環境破壊を止めるために必要なことは?

県民

175人

巻頭アンケートVOL.8



第二回 自然と人のいい「環」係を

木村光一（事務局スタッフ）

統計の母集団は違うが、10年ほど前に都道府県別のボランティア参加率を比較した新聞記事があって、滋賀県の参加率が相当高かったと記憶している。琵琶湖を中央に抱え、流れ込む流域に人びとが住んでいて、身近な河川から琵琶湖までの清掃活動に参加していることがカウントされていたのかもしれない。今は市街化されているJR沿線でも、30年ほど前には田園が広がる風景が続いていた。農業を基盤とする地域社会では、小さな川も道も共同作業で水路の維持管理するものだとされていたが、河川でつながっていた農地は工場や住宅・商業地に分断され、維持管理も難しくなっている。

環境保全といっても捉え方がいくつかあって、駅前や街中のゴミを拾うのは、衛生的に保つための生活環境の維持であるし、山林や河川・海洋の保護活動は、生態系の保全を指す。

循環型社会をテーマにしたあるシンポジウムに出席したとき、10年ほど人の手が入らなかった里山の整備活動の紹介に対して「人の手を加えるのは、自然を壊している。手を加えないのが自然保護だろう」と批判が上がった。品のいいスーツをピシッと決め、インテリジェンスを感じさせられる人だったので、ピーンと来た。書籍か教室で学んだ自然 v s 人工の対比思考なのだろう。発表者の補足説明も納得できなかった様だった。今は笑い話になったが、林業家が枝打ちをしていたら、生徒を連れた教師が通りかかって「おじさんが、木をイジメてる。ダメねえ」と教えたとか。よく似た話はある。

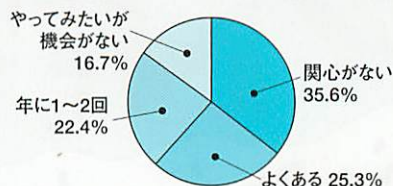
人間を含めた複雑な連鎖の中で、自然はバランスを保っている。人間は、絶滅種や危惧種を復活・繁殖させる事ができても、養うだけの空間を奪ってしまった。他方で人間は、小さきもの、弱きものを守る方法を知っている。小さな取り組みに見えても、活動を続けることで、理解する人、支持する人を広げ、つないでいく。これは、人間の良心に火を灯し続ける活動のように思える。



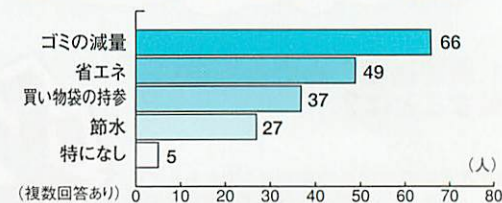
環境破壊を止めるために必要なことは？ 県民175人巻頭アンケート結果

▶▶▶ 表紙よりつづき

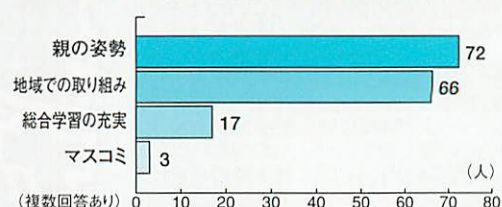
Q2.環境保全のボランティアに参加したことは？



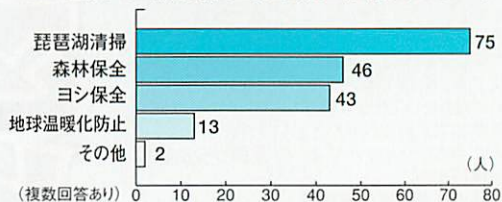
Q3.家庭で環境のために気をつけていることは？



Q4.子どもが環境に関心をもつために大事なことは？



Q5.どんな環境保全活動に参加したい？



アンケート：携帯情報メール発信会社「j2メール」協力
 県民：175名（回答数）男性：72名 女性：85名
 性別不明：18名 20代：25名 30代：68名 40代：38名
 50代以上：22名 年齢不明：22名

【9月号のアンケート】
 次回9月号はボランティアをテーマにした巻頭アンケートを実施します。読者の皆さんもぜひ、アンケートにご協力ください。詳しくは「センターインフォメーション」をご覧ください。

CONTENTS

- 巻頭コラム●アンケートから考える
- 自然と人のいい「環」係を ①
- 特集・Oh!Me!Eyes... ②
- KIRARI★INTERVIEW... ⑤
- 私たち「きらり」輝いています!NPO
 - まなつのコンサートをやりませ実行委員会(文化)
 - グラウンドワーク甲良(まちづくり)
 - しがらき理学会(文化)

- がんばれ!NPO 応援団... ⑦
- 【めととと★コラボ】
- 【おうみネット講座・心の通う情報誌づくり】
- 【ONLY ONE リレーエッセイ】
- 【スローグッズ探検隊】

行って来て見て情報BOX
 7月・8月..... ⑨

環境問題に取り組む NPOのあり方

日本一大きな湖である琵琶湖。滋賀県民にとって、琵琶湖は「あって当たり前」的な存在です。しかし、琵琶湖は滋賀県民だけのものではなく、琵琶湖淀川水系の多くの住民の生活に影響します。多くの流域住民の生活に密接する琵琶湖の環境を左右するのは滋賀県民の琵琶湖への関わり方です。今回のおうみネットでは、琵琶湖にこだわり活動を続けている滋賀県環境生活協同組合理事長・藤井絢子さんとびわ湖自然環境ネットワーク代表・寺川庄蔵さんに環境問題への「こだわり」を語っていただきました。

●活動のきっかけについて教えてください。

寺川 もともと比良山を中心に山登りが好きだったんです。登山をしている時にゴミがたくさん落ちていて、「いっぺんゴミでも拾おうか」ということから始めました。ゴミ拾いなんてあまり楽しいことじゃないでしょう?でも、一度やると、「何かいいことやった」という満足感というか、結構おもしろかった。じゃ、毎年続けていこうということになり、そして他の山でもできないかと、と広げていきました。当時は開発ブームの真っ最中で、ゴミだけでなく林道建設やスキー場開発など自然が破壊されている現場に出会い、いろんな開発問題などに取り組み始めました。その後、県内の様々な地域で、環境問題に関わる団体の情報交換、

意見交換の場として、一九九〇年七月にびわ湖自然環境ネットワーク(FLB)を立ち上げました。

藤井 私が環境問題に関心を持ったのは、学生の頃、水俣の作家石牟礼道子さんが書いた『苦海浄土 わが水俣病』に衝撃を受けたことです。その後、夫の転勤で守山へ移り住み、琵琶湖との関わりができました。不知火海(しらぬい)の水は太平洋に出ますが、琵琶湖は出口が瀬田川一本の閉鎖水域です。ここで水質破壊が起きたら、水俣どころじゃないと感じました。一九七七年の赤潮の発生が契機になって、琵琶湖の富栄養化の防止のために「せつけん運動」に取り組みました。そういうことから、原点は「ミナマタ」だと言えます。

●活動を続けてこられて当初との違いを教えてください。

藤井 環境生協を立ち上げ、合併浄化槽の普及をはじめ、琵琶湖に注ぐ水の浄化をどうするかということに取り組んできました。が、琵琶湖の水質は一向によくならない。問題はそんなにシンプルじゃないんですね。様々な要因が複雑に関係している。その中で琵琶湖そのものじゃなくて、琵琶湖をとりにまく流域全体で、住民がどれだけ自分の問題として関われるか、自分たちの暮らし全体に目を向け、暮らし方そのものを再点検する活動に変わってきました。

寺川 FLB設立後、淡海ネットワークセンターはじめ、いろんな情報交換の場や交流の場ができ、行政にも、NGOと協力関



◎藤井さんの著書
「菜の花エコ革命」



◎びわ湖よし
よしプロジェクト報告書

みんなが変わらないと世の中変わらない、というのじゃなくて、百人のうち一人が変われば、変わる。

係が必要という考えが強まってきて、本来の使命を果たしたのではということでも二〇〇一年一月から、それまでの情報・意見交換の組織から、個々の人が滋賀県の自然と環境を守っていく、一人一人が行動していく組織に切り替えました。

●現在取り組んでいること、NPOだからできたこと。

寺川 「よしよしプロジェクト」については、昨年からやり始めましたが、見事に失敗。今年も成功までは行っていませんが、ヨシが根付いて出てきたので、一歩前進したかと。ある意味、行政は一つの形を作らないといけない。失敗を許されない存在ですね。それに比べれば僕は気楽にチャレンジできる。今、森が死んでいるということが琵琶湖の汚れる原因の一つでしょう。間伐材を利用するこのスタイルでヨシがうまく活着することになれば、森林と琵琶湖とのつながりもできてくるので、新しい提案が出来るかと思っています。

藤井 琵琶湖と森林をつなげる方法にはいろいろあります。寺川さんがやっておられるように直接、琵琶湖とつながることや、もうひとつはエネルギーもあります。ただ

「森の再生計画」とか「資源循環型社会の構築」とか言ってもまちの人は動きません。

そこで考えたのが、「マツタケ山再生計画」です。松茸が昔のように生えるためには里山に手を入れる必要があります。実際には森の再生計画なんですけど、「木質バイオマスを利用しよう」では人は動かないんです。地域の人が自分の問題として動かないと運動は進みません。仕組みづくりが難しいんですよね。でもこれが森に目を向けていく一つの向け方かと思っています。

寺川 いい提案をすれば小さくても大きく広がる可能性がありますね。そういう意味では、例えば清掃登山も、比良山で一九七三年に始めて、その後全国に広がっていききました。誰でもできることが大事なんです。最近ではエベレストで清掃登山するところまでつながっています。

藤井 「菜の花プロジェクト」もいろんな参加の仕方、関わり方が出来ます。そこには、「楽しさ」「わかりやすさ」があるんです。だから全国に広がっているんだと思います。

そういうことでは、清掃登山も同じでしょう。こういう継続性の事業は行政では発想にあがってできないんです。行政の施策には継続性がないでしょう？ 地域の暮らしは



寺川庄蔵さん
(てらかわしろうぞう)
びわ湖自然環境ネットワーク代表

継続。自然を相手にすると
きはもつと長い継続性を持って行動し考えなければならぬでしょう。

寺川 それは行政の仕組みとNPOの違いだと思っています。僕は両者のハードルは本当はそんなに高くないと思う。ただ行政はそれを超えられずに悶々としているんだと思います。

●NPO (NGO) の限界について。

藤井 運動は楽しくないとやらないけれど、それだけでは時代は変わらない。「したたかに時代を読み解いてシナリオを作って、発信していく」ということがないと世の中は変えられないわけで、時代をどう読み解くか、そして読み解きながらそれをどう高めていくのかの仕組みが必要だと思っています。その点も寺川さんも悩んでいるところだと思います。そこで必要となるのが専門性です。自分たちのこの動きを高めるためにはどういう専門家が加わってくれればいいのか、ということを私は常に思っていて行動していま

●「よしよしプロジェクト」で消波堤を作る様子

●完成された消波堤



藤井絢子さん
(ふじいあやこ)
滋賀県環境生活協同組合
理事長

●ナタネ油にするために栽培している愛東町の菜の花畑



体の弱さや論理性が必要なこともわかり、また専門家のアドバイスが必

す。例えば政策提言するにしても、「時代を変え一つのヒントになるぞ」となるには、官僚や政治家に「うん」と言わせなければならぬ。そのためには、したたかに絵を描く必要がある。同時に豊富な人のネットワークを持つことがとても重要だと思います。

寺川 これまでのNGOの運動を見ていて思うのは一過性の問題です。例えば琵琶湖を守るためにゴルフ場反対とか言うが、ゴルフ場がなくなっても、琵琶湖を守るという認識があるなら、ゴルフ場以外にもいろいろ問題があるはず。だから引き続きそういう意識を持ち続けてほしいし行動してほしいが、なかなかそこまで行きません。そこで、「水上バイク」問題で僕らが考えたのは、これまでのように「行政に頼んで何とかしてもらおう」「条例を作ってくれ」と言うだけでなくて、自分たちで条例の提案を作ろうということになりました。この動きは、それに対するおもしろさと同時に、運動団



●環境生協が販売しているエコ商品

体の弱さや論理性が必要なことから、新しいつながりも出来るようになりました。その結果、全国に発信しても恥ずかしくないものができました。この経験から、一過性とか論理性を克服して連帯が加われば、今後は一定の主導性を持ち、先見的な提案をしながら時代を拓いていけるような気がします。

●行動に移せない人や次世代に向けて何かア
ドバイスを。

藤井 長年、水俣病に取り組んでこられた原田正純医師が「地球環境問題は子宮環境問題だ」と述べられたことに感銘を受け、「いのちと食」にこだわって活動してきました。寺川さんと私は同年代で、子どもの頃の原体験が大きいと思います。生き物や自然に体全体で親しんでいます。そういう体験があると、山の痛みが自分の痛みと感ずる。そうすると、はじめは感性のみで行動しますが、後は「開発の問題って何なの」と論理的になっていきます。そのように活動は変化していくと思います。子どもの頃の原体験ということ言えば、親も忙しくて、周りの環境からも自然とふれ合わせていないと悲観される親御さんもうっしやるかも知れませんが、私たちの子どもの頃

「したたかに時代を読み解いてシナリオを作って、発信していく」ということがないと世の中は変えられない。

はほったらかしでしたでしょう。だから親が教えるとか考えなくていいと思います。ただ、社会に様々な場がなければ、学校や行政に頼むのではなく、私たち自身がそこをどういう風に子どもたちと共に準備していくのか考えていく必要はあります。

寺川 僕は清掃登山を出発点にその後いろいろ問題が見えてきて、それに対して問題意識を持ち始め、「自分が好きな山、自然を守るのが自分の使命」と思い、いろんな問題に取り組みだしました。具体的に目に見えている部分から入っていくことが多いんですね。今、行動していない人は、行動を起こすきっかけというか、切実感がまだないのでしょう。最近、女性は元氣ですが、男性は会社や職場でヘトヘトになっているので、残念ながら、そこからはいい考えは出てこないような気がします。ただ、僕が悲観しないのは、みんなが変わらないと世の中変わらない、というのじゃなくて、百人のうち一人が変われば変わらぬと思う。そういう点では、一人が変わっていくような仕組みが我々にできるならばその可能性はあると思います。

■今日はどうもありがとうございました

NPO きらり 輝いています！

●琵琶湖をバックにしたステージは最高。



地域でボランティア活動を広めようと奮闘しているあなた、新たにNPO活動を立ち上げて琵琶湖のまわりを走りまわっている君、「淡海」というフィールドで、静かだけど、どこか「きらり！」と輝いているボランティア活動や市民活動で活躍されているNPOの皆さんをご紹介します。

たくさんの方が「力」を持ち寄ってくれたから長く続けてこられましたね

文化 まなつのコンサートをやりませ実行委員会

真夏の彦根で、毎年「音楽祭」が行われているのをご存知ですか？この夏、十五回目を迎えるこの音楽祭、主催は「まなつのコンサートをやりませ実行委員会」。代表はピアノ講師の寺村邦子さん。子どもの手が離れたら何かしたいと思いい、一九八八年、文部省の生涯学習フェスティバルに応募、百十一台のグランドピアノを一堂に集めて合奏というギネスに挑戦しました。この時の快感が忘れられず、地元でも何かしようと、近所にある彦根城金亀公園にピアノを持ち



●「ミュージックキャラバン隊」で盛りあがる患者さん。

出し、ピアノ教室の生徒など「演奏したい人」を集めて「音楽祭」を開催しました。この時、出られなかった人に「また来年するからね」といったことから、翌年も開催。そしてまた「来年」と言いながら継続するうち、仲間が集まり恒例行事に。「応募してくれたら誰でも参加できます。演奏、歌、踊り、何でもOK。もちろんスタッフも。みんなで手作りのコンサートです」と寺村さん。出演者は、子どもたちや学生、高齢者まで多様。「小学校の卒業記念にと、クラス全員で合奏してくれたり、ここなら気兼ねなくできるからって、障害者施設からの出演もありますよ」。



●第15回真夏の音楽祭&ヨシたいまつ祭チラシ。

「真夏の音楽祭を通じて多くの人と出会い、活動の輪が広がりました。こんなことがしたい、こんなことができるという人が集まってきたくれるんです。十五年も続けてこられたのはみなさんのおかげ。ホントに感謝しています」。寺村さんのアイデアと仲間の力の結集。今年のコンサートももうすぐです。

(編集ボランティア 松井由美子)

まなつのコンサートをやりませ実行委員会

代表●寺村邦子
設立●1989年
会員●毎年この指とまれ方式
連絡先：彦根市尾末町5-12
TEL：0749-24-0916

●代表の寺村さん。



文化 しがらき狸学会



●定期的に「狸タイムズ」を
発行。また狸が登場する
童話の復刊も手がけた。

狸のもつ微妙な間合い、曖昧さに魅せられて

「学会と名前はついていますが、難しい入会資格があるわけではありません。「狸心」がある人なら、だれでも会員さんになっていただけます」と、しがらき狸学会会長の大平正道さん。信楽の町には、なんと人口の五倍の八万體にもほる焼き物があり、まさに「狸の里信楽」。ここで、しがらき狸学会が産声をあげたのは、二〇〇一年四月。今では、会員二二〇名で四つの部会があります。主な

活動として三か月に一回の例会のほか、「狸タイムズ」という新聞を

発行しています。また年一回開催されるシンポジウムには、日本全国から会員が駆けつけ、狸に対する熱い思いを語り合う「舌鼓」と、おいしい食事をともにする「腹鼓」を楽しみます。



●信楽には約300匹の野生のタヌキが生息するという。

狸を愛する人たちが集まり、狸を通して文化や街づくりを考えるNPOが信楽にあるのはごく自然のことのように思えますが、設立のきっかけは意外なところにありました。地域で市民活動を続けておられた大平さんが、新聞のリレーエッセイの原稿依頼をうけた

時、迷った末テーマに取り上げたのが「狸」。信楽生まれの大平さんにとって、街にある狸の焼き物も里山にいる狸もごく身近な存在でしたが、これをきっかけに見つめ直してみたら、狸のもつ微妙な間合い、曖昧さに魅せられ、活動を始められたのです。

街づくりのために地域資源の掘り起こしをしよう、とよく言われますが、自分たちの住む地域の財産が何なのかは、具体的にはなかなか分かりません。「当たり前だからこそ見えなくなっているのだから、住む人は感性をもつこと、また地域のよさをたくさんの人といっしょに楽しむことが大事。狸の縁で、世界中にネットワークが広がっています」と大平さんは、狸のような愛嬌のある目を輝かせて（失礼）、活動の秘訣を話してくださいました。（編集ボランティア 西尾久美子）

●代表の大平さん。

しがらき狸学会

代表 ●大平正道
設立 ●2001年4月
会員 ●120名
連絡先 ●甲賀郡信楽町長野459-2
TEL : 0748-82-0073



まちづくり グラウンドワーク甲良



●遊園が花で飾り、水路がきれい。せちのまち。

「しなげれば」という住民の思いは、事業計画の変更へ生かされ

甲良町独特の「水路」のある農村風景を守り、まちづくりに生かす「せせらぎ遊園まちづくり」へ

今、石造りの水路にきれいな水が流れ、水辺に可憐な花が咲く。薫風が心地よく渡っていく。

このどかな風景も、ほ場整備事業に伴う水路のパイプライン化により、これまで生活に密着し、甲良の集落風景を形づくってきた水路が消えるのではないかと危機感が住民を奮起させるきっかけとなった。「なんとかこのどかな風景も、ほ場整備事業に伴う水路のパイプライン化により、これまで生活に密着し、甲良の集落風景を形づくってきた水路が消えるのではないかと危機感が住民を奮起させるきっかけとなった。」「なんとか

た。町内十三集落に「むらづくり委員会」が設けられ、それぞれの地域で、地域の特色を生かした地域の顔づくりが住民自らの手で始まった。水路や公園、グラウンド整備など、これまでなら行政に要求するだけで自ら動くとしなかったが、地域住民自らが汗を流し、関わるようになった。「はじめは消極的だった人たちも次第に皆でやることはすばらしい、と意識が変わってきました。また、自ら汗を流し整備したので、公園や水路は自分たちのものという意識が生まれました」と事務局長の辻川さんは語る。

こうした住民自らの動きに行政・専門家がかわり、甲良町独特の「水路」のある農村



●甲良西小学校のコンクリート池をビオトープ池に再生。

風景を守り、まちづくりに生かす「せせらぎ遊園まちづくり」へと結集してきている。地域のことを一番よくわかっているのは、地域の住民のほう。専門家のすすめでイギリス発祥のグラウンドワーク活動にも参加。これがかきつけて、「パートナーシップで地域の環境創造を」をモットーに、まちづくりにいっそうの弾みがついたという。外からの訪問者もずいぶん増え、今、まちづくりのモデルとして社会の耳目を集めている。

洪柿舎・七郎平にある事務所を出ると、北落（きたおち）の集落は、水路がめぐる静かな昼間を迎えていた。

（編集ボランティア 森口行雄）

●事務局長の辻川さん。

グラウンドワーク甲良

代表 ●北川勝
設立 ●2001年9月
会員 ●11名
連絡先 ●犬上郡甲良町北落80-180-1（洪柿舎・七郎平内）
TEL・FAX : 0749-38-8047



合は、テレビ、ラジオのニュース、新聞記事として掲載してもらうことが可能です。この場合、単に受け身姿勢で待っているだけでは記者は来ません。各地元新聞社やテレビ、ラジオ放送局に自分たちの活動やイベント内容など、詳細に書いたものを持参するなり、郵送するといった努力が必要です。

[図A参照]

■コミュニケーションツールとしての情報発信はWEBで情報誌はコミュニケーションツールであることは言うまでもありません。今まではハガキやFAXといった手段を用いて双方向性を担っていましたが、これからはインターネットメールや携帯メールがその位置づけを確実に担っていきます。さらに、WEB情報はパソコンや携帯電話さえあれば一番安価で情報発信ができ、しかも全国へ発信、インターネットにおいては世界に発信できる情報伝達方法なのです。よって、このWEBの世界はコミュニケーションツールとして21世紀に欠かせない情報伝達手段と言っているいいでしょう。但し、現在においては、WEB情報の場合、ユーザー側（情報の受取手）にハードウェアがないと伝達できないという問題点があります。ということで、情報発信手段は一つの方法に拘らず、多くの手段を用いて発信することをおすすめします。それについては次回ご説明致します。

※次号は「伝達方法を明確に」についてです。

体感できること。中には、音響や照明が好きでプロ顔負けに極めている人もいます。また、年1回サポータープロデュースのイベントを開催。今年3月、石原詢子さんをゲスト



▲受付でお客様を迎えるサポーターのみなさん。

にカラオケ大会を企画、3日でチケット完売という人気で、行政の発想とは違った企画力が期待されます。県下ではびわ湖ホールや碧水ホールのほか、伊吹町薬草の里ホールでもサポーター制度の導入が始まったところ。公立ホールの費用対効果が問われるなか、住民とのコミュニケーションを大切に、新しいホール運営のあり方を提言していると言えます。「営利面だけで捉えるのではなく、顕在化しないが文化的に大きな効果やメリットを、私たち自身は日々肌で感じています」と小川会長。あなたも、この感動のステージづくりをぜひ体験してみませんか？

【問】 ルッチプラザ「ベルホール310」
TEL.0749-55-4550 FAX.0749-55-4556
<http://www.town.santo.shiga.jp>

ONLY ONE

ワレエッセイ

「見守り合う雰囲気大切に」

おやこ教室
「まめっちょ」

山本文代さん



「まめっちょ」に来たら、気持ちがホッとするんです」というお母さんたちの言葉に励まされて、おやこ教室を続けること8年となります。子育てしている親の思いに寄り添いながら、親子の遊びを通して子どもの成長について話し合ったり、親と共にその姿を喜び合うことや、親同士がそれぞれの子どもを比較するのではなく、ひとりひとりの育ちをお互いに見守っていけるような雰囲気づくりを大切にしてきました。ここ数年の間には、いろいろな形で子育て支援がなされるようになり、様々な育児の情報がいきかうようになりましたが、親たちにとって選択肢が盛りだくさんで活動的になれる反面、何をどのように毎日の育児の中で取り入れていったらいいのか、とまどうことも多いようです。そんな悩みに向き合っ子どもとどうつきあい、受け止めていくのか、具体的なところで自らが気付いてもらえるような実践とメッセージを、これからも伝え続けていきたいと思っています。

次回は「MIFA日本語のつどい」の
勝尾いと美さんです。

スローグッズ探検隊

NPO団体が開発した人や自然にやさしい商品をご紹介します!

NPO法人 山の会「山の恵み商品」



1982年に琵琶湖の源流域の一つ、朽木村針畑地区で「雑木山は生活文化の源」という理念のもとに活動をスタートした、山の会。以来、25ヘクタールの雑木山を拠点に、自然環境の調査やキノコ・薬草の栽培など、自然環境の保全や活用に取り組んできました。「山の恵み商品」は、そんな活動の中から生まれた、針畑の山の恵みを生かした商品です。針畑地区を流れる針畑川の下流、安曇川の米で作った純米吟醸酒「山人」や、ミツバチが柗の花から集めたという柗の蜂蜜のほか、農薬を使わずに育てた紫蘇で作った紫蘇茶、紫蘇ドリンクなどがあります。これらの商品は、NPO法人山の会ホームページから直接購入することができます。

【問】 NPO法人 山の会
高島郡朽木村生杉熊ノ谷口263-1
TEL: 0740-38-5158 FAX: 0740-38-5166
URL: <http://www.somabito.co.jp/soma/>

がんばれ!NPO 応援団

市民活動を元気にする情報コーナー



おらみネッシー講座 心の通う情報誌づくり

市民活動の情報発信のためのアドバイス。
★ご意見、ご質問を受け付けています。

【VOL.2 情報を伝える方法は?】

■コミュニティ誌以外の情報発信手段

前回【VOL.1 伝える情報とは?】では、コミュニティ誌はその情報を伝える人が誰かによって「タウン誌」「企業広報誌」「ミニコミ誌」の3種類に分かれるというお話をしました。では、コミュニティ誌以外で市民活動をしている皆さんの情報を伝える方法にはどんな手段があるのか知っておきましょう。

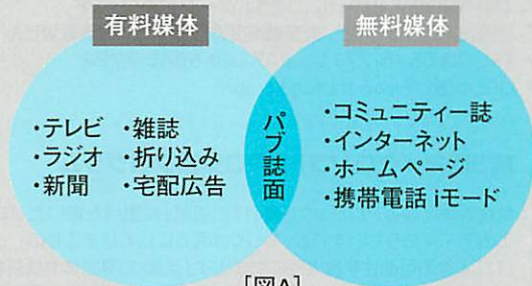
<情報を伝える5つの方法>には

- ◎ペーパー [新聞・有料雑誌・コミュニティ誌・新聞折り込み (情報誌、広告)・宅配広告]
- ◎テレビ ◎ラジオ ◎インターネットホームページ◎携帯電話があります。つまり、コミュニティ誌はペーパー

の一つになります。テレビ、ラジオや有料雑誌を市民活動の情報発信としてどう利用するかというと、一つはお金を払って記事広告扱い、もう一つは地域情報として取材対象になるということです。前者、特にテレビ、ラジオ広告は市民活動では到底無理な情報手段です。

■有料媒体と無料媒体の使い分け (有料媒体を無料で使うには)

私たちが情報を伝える方法には先に述べました5つの方法があります。そして、一般に情報を伝えるには大きく分けて2種類、「無料媒体」と「有料媒体」があります。有料はお金を払って情報を伝達する方法で、テレビやラジオのCM、新聞広告、折り込み広告などがあります。但し、これらの有料媒体を無料で使う方法もあります。それが、「パブリシティ」と言われる紙面です。つまり、情報の内容が地域のニュースソースとして見えそうな場

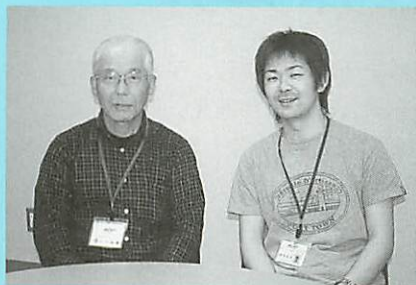


めとてとコラボ

市民と行政、市民と企業などの、新しい市民協働 (パートナーシップ) のカタチを紹介します。

ホールのステージ創りに住民パワーが活かされ 新しい出会いと交流、感動の輪が広がっています。

.....ベルホール310 (サントー) サポーターミーティング



▲会長の小川さんと事務局の細田さん。



▲7月に行われる公演のリーフレット。



▲舞台の仕込み作業。



▲チラシの折り込み作業。

1999年、山東町立町民交流プラザ内に音楽ホール「ベルホール310」誕生と同時に、市民ボランティアの運営サポート「ベルホール310サポーターミーティング」が発足しました。1997年から、町で生涯学習の一環として市民サポーターを募集しており、会長の小川隆義さんは、「定年後ボランティアをしたかった。オーディオ関係に興味があったので応募した」と言います。約1年間、音響や照明の基礎知識から舞台の裏側まで実技研修を重ね、今で

は、公演の仕込み作業から舞台の設営・受付など自主事業をサポート。また、学校鑑賞会やピアノ発表会などを含め合計年間20回、延べ160人のサポーターが活躍しており、プロの公演では音響・照明はお手伝い程度ですが、アマチュアの発表会では音響プランの作成から照明のオペレートまで仕切ります。住民の評判も上々で、顔見知りが出て親しみを感じるとか。「働いている姿を見て自分もやってみたい」など新しい交流も生まれています。現在メンバーは20代~60代の20名余、毎回中高年が中心に7~8名が裏方を支えます。

活動の楽しみは、たくさんのお客さんやアーティストと身近に出会い、普段味わうことのできない感動とパワーを

9月・10月の掲示板 情報募集中!

日時・場所・問合せ先等を明記の上、8月8日までにEメール、FAXまたは郵便でセンターまでお寄せください。

平成16年度ドコモ市民活動団体への助成事業

- 対象 ● 「子どもを守る」をキーワードに、家庭内・地域社会等の中で弱い立場にあり被害を受けやすい子どもたちにふりかかる問題 (ex. 児童虐待、非行、不登校、貧困、地域犯罪等) に取り組み、子どもの育成のために活躍している団体
- 助成対象活動テーマ ● 「子ども育成」
- ① 家庭・地域・学校が一体となった子供の居場所づくり
働く親への支援を主目的とした放課後の子供の生活の場づくり
不登校やひきこもりの子どもたちへの社会的自立支援
- ② 児童虐待防止など児童の保護・支援
虐待防止支援・自立支援
- ③ 子育て家庭支援
親子教室等、子育てに関する相談を受けるネットワークや電話相談、子育てに関する講演等側面支援保育等、子育て支援・男女共同参画のための啓発、側面支援
- 申請期間 ● 7月20日(火) 必着
- 申請方法 ● 必要事項を記載した申請書を郵送 (簡易書留) によりNPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンドあて送付してください。申請書用紙はホームページからダウンロードしてください。
- 【問】 NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド
住所: 〒107-0052 東京都港区赤坂2-4-5 国際赤坂ビル19F
TEL: 03-5545-7711 FAX: 03-5545-7722
URL: <http://www.mcfund.or.jp/>

第3回マイクロソフトNPO支援プログラム

- 助成対象となるプロジェクト ● 「ITの活用」に重点を置いたプロジェクトで、以下のテーマのうちいずれか、もしくは両方に当てはまるもの。
- (1) 「人々の可能性を最大限に引き出す」活動: 応募団体や受益者の可能性をひろげたり、豊かな夢のある生活をもたらす活動 (2) 「社会的課題の解決をめざす」活動: 住みよい社会を実現したり、さまざまな社会的課題を解決したりする活動
- 助成対象団体 ● (1) 日本国内に本拠を持ち、日本国内で活動するNPO (法人格の有無や種類は問いません) (2) 法人格を有する場合は1年以上の活動実績を有すること。NPO 法人格を持たない場合は3年以上の活動実績を有すること。(3) 基本的なITの使用が可能なこと。
- 応募期間 ● 7月20日(火) 24:00 まで
- 【問】 第3回マイクロソフト NPO 支援プログラム公式サイト
URL: <http://www.microsoft.com/japan/npo>

(財)イオン環境財団「第14回助成先公募」

- 募集要旨 ● 地球環境の保全・地域環境の保全のために積極的に、継続的に活動を行っている団体・個人に助成するものです。
- 基本テーマ ● 「自然の生態系を守るために」
- 応募期間 ● 8月20日(金)まで
- 【問】 (財)イオン環境財団 助成先選考委員会事務局
〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1丁目5番地1
TEL: 043-212-6022 FAX: 043-212-6815
URL: <http://www.aeon.info/ef>

滋賀会館シネマホール 7月の上映予定

- モーリス・ベジャール・バレエ団びわ湖ホール公演記念ロードショー
「ベジャール、バレエ、リュミエール」…7月7日(水)～25日(日)
- 『殺人の遺憶』……………7月7日(水)～19日(月)
- 『オアシス』……………7月21日(水)～8月1日(日)
- 『赤目四十八瀧心中未遂』7月中
- 『ゲームの規則』……………7月中
- 『フレンチカンカン』…… 7月中
- 『ロスト・イン・トランスレーション』…8月中
- 『それいけ!アンパンマン』最新作… 8月11日(水)～
- 『チルソクの夏』…………… 8月下旬～

◆リクエスト受付中!

上映してほしい作品名と住所、氏名、電話番号を記入の上、ハガキ、ファックス、または電子メールで淡海ネットワークセンターまでお送り下さい。

当日料金は、毎週水曜日 ¥1000 均一!
ロードショー / 一般 ¥1700 / 学生 ¥1400 / シニア・小中高 ¥1000
スタンダード / 一般 ¥1300 / 学生・シニア・小・中 ¥1000 共通前売り券 ¥1300 (月毎の券です) いたします。

・各回入替制 ・上映時間・料金はお問い合わせ下さい。
TEL: 077-522-6191 滋賀会館シネマホール

口コミ交差点

●イベント参加報告●「子どもの虐待防止民間ネットワーク」

4月29日、子どもへの虐待防止に取り組む全国の民間団体が草津に集まり、「子どもの虐待防止民間ネットワーク」が発足しました。滋賀県からは、CAPネット・しが (CAPプログラムに取り組むNPOのネットワーク組織) やCAPNeS (子どもの虐待防止ネットワーク・しが) が参加し、活発に意見交換がされていました。

全国に強い衝撃を与えた「岸和田事件」でさえも、関係者からは「特別な例ではない。どうしてあの事件があんなに大きく報道されたのか不思議だ」との声が聞かれます。その後も大阪府豊中市の女児の虐待死事件が明らかになるなど、虐待事件の報道は途絶えることがありません。子どもへの虐待は、今の時代に始まったことではありませんが、近年では、核家族化に伴い人間関係が希薄になりつつある中で子育てを行っている親の孤立という要因が大きいとのこと。親を孤立させず地域で子育てをサポートす

るため、公・民間問わず情報を共有し、子どもを守るためにできることを一人ひとりが考え、行動し連携することの必要性が訴えられていました。

子どもの直接的な安全確認・安全確保が第一であるものの、虐待する親から子どもを引き離す「親子分離」だけで解決する問題ではありません。虐待の防止と不幸にして虐待が起こってしまった場合の親子関係の修復、家族の再統合に高い専門性と細かい配慮が要求される非常に難しい問題です。それだけに、迅速で個別的な対応ができる民間団体の役割がますます大きくなると感じました。

(淡海ネットワークセンター 笹山)





行って来て見て 情報BOX 7・8月

イベント

第9回全国病弱教育研究会 全国大会(滋賀大会)

「You are not alone!
一人で悩まないで」

▶ 7月31日(土)・8月1日(日)

内容● 記念講演「不登校児にとっての
養護学校の役割と意義」

講師:西岡研哉(大津赤十字病院小児科部長)

パネルディスカッション「IT時代の患者会、患者ネットワークの構築に向けて」

※プログラムの詳細はお問い合わせください。

会場●ピアザ淡海

参加費●事前申込 5,000円 当日申込 6,000円 一日のみの参加 3,000円

学生・患者及び障害者自身 1,000円

申込先●〒524-0022 守山市守山5丁目6-2県立守山養護学校内

全国病弱教育研究会事務局 小川幸宣

【問】<http://zenbyoken9.children.jp/cms/>

上記ホームページに大会案内、宿泊案内、大会及び宿泊申込書、賛助金依頼、広告依頼をダウンロードできるようにしております。

わくわく!木の遊園地

▶ 7月24日(土)~8月2日(月)
10:00~17:00(8/2は16:00まで)

内容● 北海道の伊藤英仁氏の木のおもちゃを展示し、直接ふれあい遊んでもらう中で、子どもたちははじめ、たくさんの人たちに木のぬくもりややさしさを感じていただき、心豊かにすごしていただく。

場所●明日都浜大津

参加費●大人500円、子ども300円

【問】ころぼっくろの家

TEL:077-527-7260

URL:<http://kinoyuenchichi.com>

参加者募集

大津市南部障害児児童ボレボレ 保育ボランティア募集

内容● 保育ボランティア:子どもと一緒に歌を歌ったり、散歩に行ったり、楽器をならしたり、お料理したり、プールに入ったり、遊んでくださる方。

※その他として、文化芸術ボランティア

開所日・時間●水曜日:14:10~17:00

土(または日)曜日:10:10~15:00

ボランティアさんの集合/解散はそれぞれ保育前30分、保育後30分

※登録していただき、年間を通じて都合のつく日だけでもOKです。

主な活動場所●水曜日:草津養護学校

土(または日)曜日:県立障害者福祉センターまたはノエルしごとの家(帝産/バス瀬田神領団地前)

【問】大津市南部障害児児童 ボレボレ

昼間:戸田 TEL&FAX:077-549-3081

大橋 TEL&FAX:077-543-7261

夜間:西川 TEL&FAX:077-537-5782

大津障害児・者地域支援活動 「ひまわりクラブ」

夏休みボランティア募集

内容● 障害児・者の休日、余暇を豊かに...という願いから、毎月第1・5土曜日、第3日曜日に楽しい取り組みを行っています。夏休みは毎週土曜日を予定しています。子どもたちと一緒に遊んでみませんか?

日程●7月3・18・24・31日

8月7・14・21・28日

場所●比叡すこやか相談所

時間●10:00~15:00

【問】ひまわりクラブ

TEL:077-579-3800(中村/夜9時半以降)

自然・生活体験キャンパス 夏の「くつき子ども村」

☆PART1:7月25日(日)~31日(土)

6泊7日 参加費35,000円

☆PART2:8月4日(水)~13日(金)

9泊10日 参加費48,000円

内容● 滋賀県朽木村平分校(休校中)を

宿舎に、分校の前を流れる清流針川と 周辺のフィールドを利用した自然・生活体験合宿

です。プログラムの内容は、4班対抗の「真夏の

大運動会」(水上大玉サッカー、水上 キック

ベース、水上サバイバルドッジボール、水中お

宝さがしなど)をはじめ、サバイバー(班ごと

の自炊体験)、ダンススタジオ、クラブ活動、ジ

ャンプマン、クイズバトル、子ども村夏まつり

の企画と実行、子ども村村長選挙など。期間

中は4つの班が交代で、食事の用意とあとか

たづけを担当。毎日針川で洗濯もします。

※定員は、どちらも32名。参加者の制限は

ありません。主な対象は小学生から中学生

ですが、幼児でも一般成人でも参加できます。

【問】草の根農業小学校(農業小学校をつくる会)

住所:〒520-3003 栗東市荒張1423-1

TEL&FAX:077-558-0339

URL:<http://www.4.ocn.ne.jp/~kusanone/>

e-mail:kusanone@sweet.ocn.ne.jp

第13回全国ボランティア フェスティバルびわこ 「活動紹介パネル」募集

内容● フェスティバルの当日(9/25(土))会場となる「びわ湖ホール」に展示する市民活動、ボランティア等の活動紹介パネルを募集します。

応募資格● 主に滋賀県を拠点として活動している市民活動・ボランティア団体(1団体1点)

応募方法● 「4PWサイズ(横)のカラプリント写真1枚」と「出展申込票」を事務局へ送付

締切● 7月31日(土) 必着

その他● 応募いただいた写真と出展申込票をもとに実行委員会がパネルに加工します。

【問】第13回全国ボランティアフェスティバルびわこ実行委員会事務局

住所:〒525-0072 草津市笠山7丁目8-138(滋賀県社会福祉協議会内)

TEL:077-567-3924

FAX:077-567-5160

OSAKA NPOアワード2004 エントリー団体募集!

内容● 社会への発信力を強化するため、NPOによる「表現力」の向上を目指す「第8回市民活動発表会」を開催。書類審査で選ばれた7団体に本審査(プレゼンテーション)に臨んでいただき、グランプリを決定します。今後の成長が期待される団体には「奨励賞」を授与。

応募方法● 応募用紙を下記問合せ先まで送付ください。

エントリー料● 2,000円

締切● 9月17日(金)

【問】(特活)大阪NPOセンター/前田

住所:〒553-0006 大阪市福島区吉

野4-29-20大阪NPOプラザ201号

TEL:06-6460-0268 FAX:06-6460-0269

e-mail:osakanpo@onp.or.jp

土山・夏の作業

▶ 8月19日(木)~22日(日)

内容● シカやカモシカに苗木を食われないようにポリネットと呼ばれる網を苗木にかぶせます。

参加費● 6,000円

【問】かもしかの会関西

TEL:075-502-4255

e-mail:serow@pure.ne.jp

15周年・真夏の音楽祭& ヨシたいまつ祭

▶ 8月28日(土) 11:00~21:00

場所● 彦根市松原水泳場

参加費● 無料

参加者募集中● コンサート出演者(ジャンルは自由) ヨシたいまつ制作・

点火者、何かしたい人(フリーマーケット、パフォーマンスOK) イベント

スタッフ

※参加していただいたみなさんには、ヨシで作ったステキなお守りをプレゼント

申込方法● 7月15日までに名前と連絡先をハガキかFAXまたはe-mailで。

【問】やりまっせ実行委員会

住所:〒522-0015彦根市尾末町5-12

TEL:0749-24-0916

FAX:0749-26-9616

お知らせ

「来て!見て!食べて!!滋賀の味~ 近江のこだわり食材探索ガイド~」 Vol.2の発行および無料配布について

滋賀県内で生産された農水産物の販売店、利用している飲食店などを紹介するガイドブック「来て!見て!食べて!!滋賀の味~近江の食材探索ガイド~Vol.2」ができました。現在、お一人様一冊で無料配布しています(郵送の場合送料180円負担願います)詳しくはお問い合わせください。

【問】滋賀県農政水産部環境こだわり農業課(食と農と環境を考える県民会議)

住所:〒520-8577 大津市京町四丁目1-1

TEL:077-528-3892 FAX:077-528-4881

勉強会・交流会

第46回不登校・登校拒否を考える会

▶ 7月18日(日) 14:00~17:00

場所● 高島町生涯学習センター「アイリッシュ

パーク」JR近江高島駅下車徒歩15分(駐車場あり)

内容● 記念講演「一人ひとりの生き方みつめて ~不登校・登校拒否の解決とは~」講師:鎌田

ユリさん(比叡山高校教師) 交流会15:30~

参加費● 400円(資料代) 託児あり

どなたでも参加できます。(事前申込不要)

【問】登校拒否・不登校問題滋賀県連絡会

滋賀県民主教育研究所

住所:〒520-0052 大津市朝日丘1-11-3 教育文化会館内

TEL:FAX:077-525-5364 090-4037-2484

CAPNeSボランティア養成講座

▶ 7月17日(土) 14:00~17:30

場所● 草津まちづくりセンター3階306号室

募集人員● 20名程度(原則として、事前申込が必要)

プログラム● 講義(1)14:00~14:40(40分)

講師:中川泰彦 彦根子ども家庭相談センター所長

児童虐待防止に関する法制度の仕組み、関係機関の概要

講義(2)14:50~16:05(75分)

講師:野野道英 彦根子ども家庭相談センター 児童福祉司(心理)

「被害児の心理と行動特性、一時保護所、児童養護施設の現状」

講義(3)16:15~17:30(75分)

講師:杉本和子 信楽町地域子育て支援センター相談員

「子どもの気持ちにより添った保育、子どもと関わる姿勢」

参加費● 会員¥500非会員¥2,000※当日入会可

※託児有り。7/7までに事前申込が必要です。

【問】CAPNeS事務局

住所:草津市大町三丁目1番1号エネスタ201 草津法律事務所(内)

FAX:077-567-2181

助成金情報

日本財団2004年度福祉車両助成募集

内容● 高齢者や体の不自由な人が、地域で自立した日常生活が営めるよう、活躍している車があります。訪問入浴車、介護支援車、車いす対応車、送迎支援車、そして送迎バスです。また、2004年度からは「子育て支援」のひとつとして保育所バスがラインアップに加わりました。申請方法、審査、事業実施の流れなどの詳細は、申請要項(財団法人、社団法人、社会福祉法人用/ボランティア団体・NPO法人用)をご覧ください。

申請受付期間● 7月31日(土) 消印有効

【問】日本財団 福祉車両チーム

住所:〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2



この機会に本物の協働を一緒に考え、実行しませんか？

しが協働モデル研究会

NPOと県との協働から新しい市民社会を築く第1歩にしよう！

◎目的

複雑・多様化する社会的な課題や県民のニーズに的確に対応するためには、県民の視線に立ち、自ら課題解決を図ろうとするNPOとの協働に積極的に取り組んでいくことが重要です。

今後、県政全般において対等なパートナーシップに基づくNPOとの真の「協働」を推進するためには、NPOと県の双方が現在実施されている取り組みを検証しながら、よりよい協働のルールや仕組みづくりをともに研究・検討する必要があることから「しが協働モデル研究会」を開催します。

◎検討すること

- ①NPOと県のよりよい協働のためのルールづくり
- ②NPOと県のよりよい協働のための仕組みづくり
- ③その他、よりよい協働を推進するための必要な事項

◎参加にあたって

- 1. 協働に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- 2. 登録していただき、責任を持って発言してください。
- 3. 参加していただくに当たって次の最低限のルールを守ってください。

- (1)人の話は聞きましょう。
- (2)合意を目指しましょう。
- (3)それぞれの仕事や役職上の主張は持ち込まないようにしましょう。
- (4)鋭切り型の批判や要求は慎みましょう。
- (5)お互いの立場を理解して、結論を導きましょう。

※氏名と発言内容については公表されますので、ご了承のうえ参加してください。

◎研究会の今後の予定

- 第2回 8月下旬
- 第3回 10月下旬
- 第4回 12月上・中旬 (協働をテーマにフォーラムを開催)
- 第5回 2月下旬
- ※第2回以降の開催日・場所についてはメール、ホームページ、おうみネットなどを通じてお知らせします。

ル、ホームページ、おうみネットなどを通じてお知らせします。

◎幹事会について

研究会の議論に必要な題材の提供や議論の整理、素案作りを行うため5月から月1回開催しています。

◎学識経験者 (2名)

- 石井布紀子 ((有) コラボねっと代表取締役)
- 新川 達郎 (同志社大学大学院教授)

◎NPO (7名)

- 阿部圭宏 (NPO法人市民がさえる市民活動ネットワーク)
- 仲野優子 (NPO法人おうみ政策ネットワーク)
- 萩野美智子 (NPO法人プラムスホール協会)
- 林沼 敏弘 (NPO法人ひとまち政策研究所)
- 福井久美子 (NPO法人NPOまほハウス)
- 山田 貴子 (NPO法人子どもネットワークセンター茨城)
- 山田 実 (東近INPOセンター)

◎県 (8名)

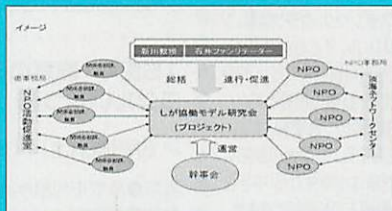
- 岡田 貞 (琵琶湖環境部エコライフ推進課)
- 岸田 和也 (健康福祉部レイカディア推進課)
- 中井 清 (総務部職員課行政経営改革室)
- 中藪 勝久 (総務部政策研修センター)
- 平井 敏孝 (教育委員会学校教育課)
- 廣瀬 正明 (琵琶湖環境部林務緑政課)
- 三和 伸彦 (琵琶湖環境部環境管理課)
- 山添みゆき (県民文化生活部人権施策推進課)

◎登録の方法

お名前、住所、電話、所属、Eメールを記入の上、FAX・メールなどにより淡海ネットワークセンターまで送付してください。

〒520-0801 大津市におの浜1-1-20

FAX: 077-524-8442e-mail: ohmi-net@mx.biwa.ne.jp



わくわく市民活動ゼミナール2004

第2回「まちづくり概論～全国の取り組み例から」(仮題)
 講師：岡崎昌之さん(法政大学現代福祉学部教授)
 今回の「わくゼミ」では、おうみ未来塾運営委員でもある岡崎昌之さんに、全国のまちづくりの動きについて事例を交えてお話しいたします。
 日時：7月31日(土) 13:00～15:00
 場所：龍谷大学瀬田学舎3号館101号室
 参加費：500円
 申し込み方法：お名前、連絡先、所属(あれば)を明記のうえ、センターまでお申し込みください。
 共催：龍谷ボランティア・NPO活動センター

編集後記

信楽焼の狸は、なぜ徳利を提げているのか？ 今回の取材で謎が解けました。狸の特徴(笠・目・顔・徳利・通い・腹・金袋・尾)には、狸八相縁起という福をもたらす理由があるとのこと。ユーモラスな「狸」は、実は奥が深い存在でした。(編集ボランティア 西尾)

「まなつのコンサート」は参加無料。会場作りから音響など、すべて実行委員のメンバー手作りのイベント。アクシデントもいろいろあったようですが、継続は力。毎年、春頃から、参加希望のファックスが流れてくるとか。アイデアを実行できる寺村さんのパワーに頭が下がります。(編集ボランティア 松井)

この4月から淡海ネットワークセンターに囁話でお世話になっています。淡海ネットワークセンターとは、おうみ未来塾1期生で関わったのが最初です。その時の出会いは大切なネットワークになっています。先日のおうみ未来塾6期生の入塾の様子を見て、1期生のときどきの初々しい時を思い出しました。環境や福祉、人権など、活動を通して市民が主体的に社会へ発信するスタイルが広がっています。市民活動から社会の変革を、そのお手伝いかができればと思います。(事務局 遠藤)

9月号のアンケート

アンケートにご回答いただける方は、性別・年齢をご記入の上、ハガキ、ファックスまたは電子メールで下記までご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。アンケート締切：9月末日

Q1/あなたはボランティアをやったことがありますか？

a.はい b.やってみたくい機会がない c.関心がない

Q2/ボランティアを始めにくいとしたら、何が原因と思いますか？

a.恥ずかしい気持ちがある b.時間がない c.何をしたらいいかわからない d.その他

Q3/ボランティアをするとしたらどんなボランティアがしたいですか？

a.環境 b.福祉 c.街づくり d.子ども e.国際交流 f.その他

Q4/ボランティアは何のためにするものと思いますか？

a.社会のため b.人のため c.自分のため d.わからない

Q5/もっとボランティアに参加しやすくするには何が必要ですか？



淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net

■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌を除く毎日(12/29～1/3を除く)
火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
 ・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県民協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など



©無断転載を固くお断りします。

